

公益財団法人みちのく未来基金の代表理事の交代について

長沼孝義氏から藤田晋太郎氏への代表理事交代に関し、12月6日開催の評議員会にて承認されましたことを報告いたします。

前代表理事 長沼孝義氏からの退任のご挨拶



2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が発生し、その後目を覆う津波が、幼い頃海水浴にも行った三陸沿岸を襲う映像がTVの画面から流れるのを、オフィスでただ呆然と見ていたことを今でもはっきり覚えています。

悶々とした気持ちが続いた中、新聞に載った被災に遭った少女の1枚の写真に心が揺さぶられ、そして古い友人たちと震災支援を話す中で、ロートの山田会長が「阪神淡路大震災でやり残したことがある」と語ったその一言が、『絶望の淵に立つ子どもたちから夢や希望までも失わせてはならない』との想いとなり、この活動を立ち上げようと決心した始まりでした。

それから約12年、延べ19,000人の個人と述べ4,000の企業・団体から累計約53億円という温かい支援に支えられ、1,099人の震災遺児の夢や希望を支援することができたことは、何にも代え難い喜びです。紙面をお借りして、サポーターの皆さまに改めて厚く御礼申し上げます。

そして共に活動を担ってくれた延べ37人のスタッフの皆さん、本当に有難うございました。



新代表理事 藤田晋太郎氏からの就任のご挨拶



このたび、代表理事を拝命いたしました藤田晋太郎です。長沼前代表は、基金設立以来12年の長きに渡り基金運営にご尽力いただき、徹底的なみちのく生ファーストの信念のもと、混乱期にありながら透明性の高い組織運営を陣頭で指揮され、今日の基金運営基盤を固められました。改めて心から感謝を申し上げたいと存じます。私は、ロート製薬(株)で勤務し、2011年に同社復興支援室のメンバーとして基金設立業務に関わり、その後第一期スタッフとして公益法人化など、法人の基礎固めに取り組みました。その後基金の直接的な業務からは離れましたが、規程作成などに協力するなど間接的に組織運営に関わり続け、2021年からは理事を務めてまいりました。震災の記憶がないみちのく生の増加や、支援対象者が減っていくステージへの対応など、今後も課題は山積しておりますが、引き続き、個々のみちのく生の想いに真摯に対応しつつ、サポーターの皆様からの浄財を、みちのく生の夢の実現のために大切に使用させていただくことをお約束いたします。今後とも皆様のご協力をご支援をよろしくお願い申し上げます。

決算報告 第12期(2022年10月~2023年9月)

基金設立以来、総額53億円の多大なるご支援をいただき、12年間で延べ1,099名の進学を支援することができました。第13期の給付者数は約220名となり、給付額は2.6億円になる見込みです。詳細な財務報告は基金のウェブサイトをご覧ください。

震災当時お母さんのお腹の中にいた子は2024年で中学校1年生になります。この子たちが大学等を卒業するまでの十数年、最後まで見守っていただけましたら幸いです。

受取寄附金	59,381,738
受取利息	17,428
収入合計	59,399,166
奨学金給付費用	274,379,242
奨学生交流費用	10,489,753
運営管理費用	33,507,037
費用支出合計	318,376,032
当期指定正味財産増減額	△258,976,866
指定正味財産期首残高	1,765,278,211
指定正味財産期末残高	1,506,301,345

単位・円

<基金の公式ウェブサイトをリニューアルしました>

みちのく未来基金の公式ウェブサイトを全面リニューアルしました。デザインを一新し、より見やすく情報にアクセスしやすい構成にしました。2期生がデザインしたオリジナルキャラクター「はなびよ」もいます。ぜひ探してみてください。併せてサイトをSSL化し、セキュリティ面でもより安心して閲覧いただけるようにしました。これからもサポーターの皆様のみちのく生を見守っていただく場として、情報発信を続けてまいります。



… <<運営費支援企業・団体>> (五十音順) …

岩井機械工業(株) / (株)一如社 / (株)インサイトリサーチ / (株)カナエ / (株)CLAVA / グリフィスフーズ(株) / コクヨ東北販売(株) / 三陸 SUN / CKD(株) / スターバックス コーヒー ジャパン(株) / 専修大学附属高等学校生徒会(株) / 土金 / (株)日進エンジニアリング / 日進工具(株) / 日本郵船(株) / 熱研プラント工業(株) / (株)フィールコーポレーション / 宮川興業(株) / (株)三好不動産 / (株)薬王堂 / 薬王堂 勝友会 / 八千代電設工業(株)

<<後援企業・団体>>

(株)秋元技術コンサルタンツ / 五十嵐 ICT プロモーション / 岩手日報社 / なぎさ社会保険労務士事務所 / 宮城第一信用金庫

<<スタッフ派遣企業>>

ロート製薬(株) / カルビー(株) / カゴメ(株) / エバラ食品工業(株) Copyright(C) 2011 公益財団法人みちのく未来基金 All Rights Reserved.

ご協力いただいている全ての皆様に感謝いたします。

みちのく未来通信



年次面談を実施しました

みちのく未来基金では1年に一度、みちのく生と基金スタッフが必ず顔を合わせて話をする面談を実施しています。みちのく生の近況などを聞くことができる機会であり、スタッフ一同とても楽しみにしております。2023年も9月から11月にかけて3会場で約240名のみちのく生と面談を実施し、学生生活の状況、サークルやアルバイト、卒業後の夢など色々な話を聞くことができました。尚、今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ほぼ全員と直接対面で実施しました。

公益財団法人みちのく未来基金
〒980-0022
宮城県仙台市青葉区五橋2丁目4番1号
エクセルジオ五橋5F
電話番号 022(724)7645 FAX番号 022(724)7646
E-mail info@michinoku-mirai.org
HP http://michinoku-mirai.org/

仙台会場



初めての年次面談で、ちょっと緊張しています！

盛岡会場



東京会場



みちのく生 OB・OG の方が、東京会場に足を運んでくれました！

みちのく生の近況

7期生 G・Sさん



現在、私は大学院卒業に向けて修士論文を執筆中です。浪人を経験して大学に入学した経緯をもつほど、机に向かうことが苦手な私が、これほどまでに勉学に向き合う時間が訪れるとは想像もしませんでした。

この時間に熱中することができるのは

それを支えてくれた家族やみちのくの皆さんのおかげです。今後は博士課程への進学を検討しており、引き続き、みちのく未来基金のお世話になります。未熟者ですがこれからもよろしくお祈りします！

9期生 S・Hさん



みちのく未来基金には大学4年間、大変お世話になりました。些細な相談にも親身になってくださり、とても救われました。私は、来春に心理系大学院に進学します。

大学院では心理的支援の学びを深めつつ、自身の研究テーマである「震災遺児の心理」の研究を進めていきたいです。そして、将来的にスクールカウンセラーとなり、子ども達の支援に携わりたいです。

11期生 H・Hさん

アメリカのコミュニティカレッジに留学しています。いずれはコンピュータサイエンス分野で



女性のロールモデルになれるような仕事がしたいです。大学のある地域は冬季の日照時間がとても短いのですが、自由になる時間は友達と過ごしたり、日本製品を扱う大きなマーケットに行ったりして、リフレッシュしながら過ごしています。

8期生 H・Mさん



私は研究者になることを目指し、大学院へ進学しました。学部生の頃とは違い主体性を持って研究や勉強に取り組んでいます。

上手いかないことや悩むこともありますが、研究室の先輩や同期、後輩とご飯を食べたり一緒に過ごす時間がとても大好きで、癒しになっています。この2年間を無駄にすることのないように、卒業までの時間を大切に使いたいと思います。

11期生 Y・Iさん



2年生になり授業もだいぶ専門的になりました。課題やテストに追われ大変だと思う時もありますが、友達と遊んだりご飯に行ったりして楽しんでいます。夏にはいろんな場所に旅行に行くことができ、今度は海外旅行にも行ってみたいと思いました！これからもさまざまなことに挑戦して頑張っていきたいです。

11期生 I・Kさん

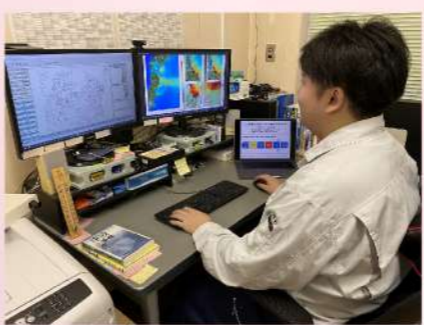


現在、新校舎が誕生してから半年通わせていただいておりますが、設備が充実していて、建物もとても綺麗なため最適な環境で勉学に勤めています。サークル活動でも、良い仲間にも恵まれ、日々楽しく過ごしています。

アルバイトも行って、新たなコミュニティができ、たくさんの刺激を受けながらキャンパスライフを過ごしています。

来春卒業予定のみちのく生からのメッセージ

4期生 S・Hさん



博士課程の3年間も、早いものであと半年を切りました。学部の卒業研究から“津波避難”をテーマとして、住民へのアンケート調査から研究生活が始まり、現在では遼上津波や避難行動のコンピュータシミュレーションに取り組んでいます。みちのく未来基金の皆さまに助けられながら、ここまで来ることができました。自身の経験と知見を将来の津波防災に役立てられるよう、課程修了まで駆け抜けていきたいです。



9期生 A・Kさん

みちのく未来基金の皆さまのご支援のおかげで、大学に進学して社会福祉士になるという夢を見つけることができました。



将来的には、様々な問題を抱える人たちの思いに寄り添った支援ができる社会福祉士になりたいです。皆さまに支えていただいたおかげで、充実した大学生活を過ごすことができたことにとても感謝しております。ありがとうございました。

9期生 T・Mさん



地元を離れ、新たな場所での生活、出会いを通じ、自分の進みたいと思える道を見つけることができたこと、私の人生や考え方の幅が大きく広がったことに嬉しさを感じます。海外の大学へ進学し、日本の大学に三年時から編入という大学生活を送ることができました。

また勉学に集中できるよう多大なる寄附をいただき、基金スタッフの皆様、また寄附者の皆様へ感謝申し上げます。将来私も頂いた応援を、未来の子供達に還元していきたいです。

7期生 M・Uさん

卒業研究が終わり、現在、卒業試験、薬剤師国家試験の合格を目指し、勉強中です。外科医の父が働いていた病院に先日内定をいただき、生前父と話していた、一緒に病院で働きたいという夢に近づけた気がします。辛かった経験を乗り越えて、夢を追うことができたのも、ご支援や周囲のサポートがあったからこそだと感じています。卒業後は人の心に寄り添える、災害時にも活躍できる薬剤師となり、力を尽くしていきたいです。



9期生 N・Mさん

まずは4年間支援していただき感謝してもしきれない思いでいっぱいです。私の大学生活はコロナでスタートしました。思うようなことができず、やるせ無い思いでいたのが懐かしく感じます。そんな私も春から社会人になります。15年間の学生生活が終わるとは想像もできません。親、支援者、友人、お世話になった方々に胸を張って顔を合わせられるようまた春から歩んでいきたいです。改めて支援していただき本当にありがとうございました。



9期生 M・Tさん

みちのく生の皆さんへ。不安に感じることも多いとは思いますが何とかになります。今しかできないことをたくさん経験して下さい。



また、大学が一番視野が広がった期間だと感じています。視野が広げられる経験を何か一つでもして欲しいなと思います。